

小田原市教育委員会臨時会会議録

- 1 日時 平成26年8月7日(木)午後7時00分～午後9時00分
場所 小田原市役所 601会議室

2 出席した教育委員の氏名

- 1番委員 山田浩子(教育委員長職務代理者)
2番委員 栢沼行雄(教育長)
3番委員 萩原美由紀
4番委員 和田重宏(教育委員長)
5番委員 山口潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

- 教育部長 関野憲司
教育部副部長 露木幹也
教育総務課長 柏木敏幸
教育指導課長 市川嘉裕
指導・相談担当課長 鈴木一彦
教職員担当課長 田中修

(事務局)

- 教育総務課総務係長 濱野光利
教育総務課主査 小林隆

4 議事日程

- 日程第1 議案第20号 平成27年度使用小学校教科用図書の採択について
(教育指導課)

5 その他

6 議事等の概要

- (1) 委員長開会宣言
(2) 会議録署名委員の決定…萩原委員、山口委員に決定
(3) 日程第1 議案第12号 平成27年度使用小学校教科用図書の採択について
(教育指導課)

提案理由説明…教育長、教育指導課長

栢沼教育長…それでは、議案第20号「平成27年度使用小学校教科用図書の採択について」

をご説明申し上げます。具体的には、小学校の通常学級で使用する教科用図書の採択を行うこととなります。小学校の教科用図書につきましては、今年度は、その採択の年となっており、今回採択する小学校の教科用図書につきましては、平成30年度まで使用することとなります。中学校の教科用図書につきましては、今年度は採択替えの年ではなく、5月の定例会において議決した採択方針のとおり、資料の2ページにありますように、今年度と同様の教科書を採択することとしております。また、特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、毎年採択することとなっており、過日7月17日の教育委員会定例会において採択してまいりました。特別支援学級における教科用図書の採択につきましては、学校教育法附則第9条により、1年毎に採択をすることとなっております。細部につきましては、所管からご説明申し上げます。

教育指導課長…それでは、私から「平成27年度使用小学校教科用図書の採択について」ご説明申し上げます。前々回7月29日、および前回7月31日の臨時会におきまして、小学校11種目の教科について、詳しく協議をしていただきました。各種目につきまして、2社から3社に絞り込んでいただいたところがございます。本日は、その絞り込んでいただいたものから、平成27年度使用の小学校教科用図書の採択をしていただきます。これまでもお伝えしてまいりましたが、小田原市の児童にとって最もふさわしい教科書を選んでいただくこととなりますので、よろしく願いいたします。具体的には、本日の配布資料の1ページでございます一覧表の中から、1種目ごとに1社を採択していただくこととなります。なお、中学校の教科書につきましては、採択替えの年度ではないことから、平成27年度に使用する教科書につきましては、前年度と同一の教科書を採択することとなっております。本日改めて採択するものではありませんが、中学校の教科書の件につきましては、資料2ページに掲載をしてございますので、ご確認いただきますよう、お願いいたします。また、特別支援学級の教科用図書につきましては、教育長の説明にもありましたとおり、過日採択をしていただいております。では、どうぞよろしく願いいたします。

和田委員長…それでは、採択に移りたいと思います。7月29日および31日の臨時会におきまして、各種目に対して絞り込んでいくという方向で、協議をしていただきました。本日はそれらを踏まえ、種目ごとに協議した後に、種目ごとに採択する方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…ご異議ないようですので、種目ごとに協議した後に、採択してまいります。みなさんに前回協議をしていただいた結果、各種目2社から3社に絞り込みを行いました。それについて、一つずつ採択をしていきますので、よろしく願いいたします。まず、採択の方法ですが、挙手による多数決で決定いたします。

お一人1票とすると、3社ある場合については、2票、2票、1票等と票が割れてしまう場合も考えられますが、その場合は、2票ずつ獲得した2つの教科書について、再度みなさんの挙手を求め、3票以上獲得したものを採択教科書として決定いたします。2社から採択の場合は、どちらかが3票以上となりますから、その3票以上獲得した教科書が採択となります。なお、票を確認するため、1番目に挙手を求めた教科書が3票または4票の獲得をし、採択する教科書が決まったとしても、2番目の教科書も確認のために挙手を求めますので、ご了承お願いいたします。

それでは、各種目ごとに進めたいと思います。全体の進め方の流れをもう再度確認をしたいと思います。まず、本日はどの教科書を採択するのかという方法で、意見を述べていただきたいので、各委員が特に推す教科書について、その良さを述べながら意見を足していただきたいと思います。その次に、たくさんの意見をいただきましたがという前提となりますが、それらの意見を踏まえて最終的にお立場を聞かせてください。もうすでに絞り込みもありましたし、夏休みに入ってから皆さんずっと教科書と長い時間向き合って、勉強なさりますので、この2段階を踏まないで、1段階と2段階を同時にご意見をいただくというののもあっても良いのではと思います。ですから、最終的な立場のお考えを述べながら、1回でおっしゃっていただいて良いのかなという進め方を考えておりますので、みなさんそれぞれご事情があるでしょうから、お任せします。そして、皆さんのご意見が出尽くしたところで、挙手で決めていく、とこのようなやり方でいきたいと思います。最後に決定したとしても、票が割れている場合は、確認の意味で、挙手の確認をするということになりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

①種目 国語

和田委員長…それでは、まず国語になります。国語は、前回絞り込んだのは、順不同で申し上げますと、学校図書、三省堂、東京書籍ということになります。いかがでしょうか。皆さんのご意見を伺いたいと思います。

栢沼教育長…私からは、学校図書について述べたいと思います。学校図書は、インデックスの方式のページ構成、あるいはゆるやかにスタートするひらがな指導、さらには句読点の書き方、これを朱書きにしている、こういった点で、発達段階を考慮し、児童に解かりやすい点が一つと、1年生の上では、就学前にたくさんの絵本に触れる、そういったことで身に付けてきた技能と、就学直後の学びの意欲、これを自然に結びつけるという、楽しく解かりやすい構成になっている点が評価できると思っています。また、各学年の発達段階に即して、読書活動を深めていけるように、冒頭と巻末で工夫して取り上げられている点が評価でき

ます。さらには、巻末に保護者の方へこの教科書で学ぶこと、保護者向けのページが設けられている点、学習内容を領域別一覧にしている点等も評価できます。

山田委員…私は、学校図書か三省堂か迷ったのですが、学校図書について述べさせていただきます。やはり子どもの発達段階に応じて、題材を選んでいると感じました。1年生は、言葉と友達というところで初めて国語に触れるのですが、かわいい動物たちと楽しく学べる目次があって、それがカットされていて、子どもの喜ぶ顔が目に見えようでした。全学年で詩をととても大事に取り上げているのですが、1, 2年生はイラスト入りなのですが、3年生からは写真やイラストが何もなく、詩だけを取り上げて、真っ白なページに詩だけが載っているという取り上げ方をしています。それは、詩を鑑賞するとき、真っ白な余白で色々なことを想像して、考えるという素晴らしいこだわりだと思いました。それから、伝統文化も俳句、短歌、狂言等を取り上げておりますし、漢字の部屋、言葉のきまり、言葉の意味等のコーナーでは、解かりやすく漢字や言葉のことをまとめられていると思いました。

山口委員…私も学校図書は、先程栢沼教育長がおっしゃったとおり、見出しのところにキャラクターの見出しがあって、小さい子は最初に取り付きやすいというか、入り込むのには良いなと思いました。三省堂の学びを広げるという別冊は、国語、日本語を教えるという意味では、とても良い別冊かなと思いました。小学生が必ずしも全部が有効に扱えるかどうかという点では、難しいところもあるかなという感じはしました。それを考えると学校図書と考えています。

萩原委員…私も学校図書か東京書籍のどちらかと迷うところです。東京書籍の低学年のものはみなさんお話されているので、私は高学年のところで話します。5年生のところで、立場を決めて討論をしようという単元があるのですが、その取り出し方がすごく素晴らしいと思いました。意見と理由を聞き取ろうとする目当てが書かれていて、討論が苦手を感じる子どもたちにとっては、大切なコミュニケーションをとるスキルを学ぶ機会になるのではないかと思います。このようなものを取り上げている東京書籍も良いなと感じました。

和田委員長…それでは、私の意見を申し上げます。他の委員の方と同じように、東京書籍と学校図書が良いと思いました。特に、入学時のところ、初めて勉強する訳ですから、その辺りを大切だと思い、注意深く見てみました。その結果、学校図書も点字が教科書に載っていて、ユニバーサルデザインでは優れているなと感じましたし、それから狂言がきちんと取り上げられているところでも、評価できると感じました。東京書籍は、学習に動作化が取り入れられていて、子どもたちにとって解かりやすい、身体を通して学ぶ、体得できる工夫をしているなと思いました。字を書く姿勢や声出しについても、各学年に一貫性があるのではないかと思います。ということで、どちらかというところ、東京書籍という感じがいたします。一通りご意見伺いましたが、皆さん、聞かれた中でまた何かご

意見があれば、伺いますが。なければ、採択、決を採るということでよろしいですか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは改めまして、学校図書、三省堂、東京書籍の3社から多数決により、採択していきたいと思います。

学校図書…3人の委員が挙手

三省堂…挙手なし

東京書籍…2人の委員が挙手

和田委員長…多数決の結果、国語は学校図書を採択します。

②種目 書写

和田委員長…それでは、次に、書写について、こちらは2社ですから、光村図書と東京書籍から絞り込んでいきます。ご意見をいただきたいと思います。

栢沼教育長…光村図書についてですが、運筆の練習が、学年に応じて大変工夫されている。また、5年生においては、自分の文字を見つめ、整えるためのポイント、これらを自ら確かめる機会を設けるといった、発達段階に応じた内容が組み込まれており、評価できます。また、毛筆での学習を効果的に硬筆へいかせるよう、毛筆学習のあとには必ず硬筆による書き込み欄を設定して、毛筆練習の内容が硬筆へとつながっている。また、1、2年生でも毛筆の書体が示されており、毛筆と硬筆との教材例の提示、および関連というのが大変適切であると評価できます。したがって、毛筆、硬筆との教材例の提示、発達段階等、さらには日常生活の関連を図った教材例の適切さを見たときに、光村図書については大変評価できると思っています。

山田委員…東京書籍ですが、1年生の最初の鉛筆の持ち方のところで、写真を載せておきまして、お箸の持ち方を載せて、お箸の持ち方から1本お箸を取ったときに鉛筆の持ち方だと、子どもがとても解かりやすいと思いました。光村図書は、1年生で、曲がりと折れというひらがなを書くところが、東京書籍は、1ページに2つとか3つ載せているのですが、1ページに1つの文字だけ、「も」だったら、「も」だけを書いて、とても子どもが解かりやすいし、あまり欲張らずにすっきりとした作りになっているので、それは良いなと思いました。また、6年生の文字の歴史というところで、書写ですから文字の勉強ですが、文字の歴史、3千年以上前の漢字の誕生から今までの文字の歴史が書いてありまして、

子どもたちがとても勉強になると思いました。それから、手紙の書き方、はがきの書き方はよくありますが、それはもちろん載せてありますし、エアメールとか、ノートの取り方の工夫とか、電話のメモの取り方等とても実用になるものが6年生の教科書には掲載されておりました。私は、光村図書が優れていると思いました。

山口委員…鉛筆は幼稚園の頃から持っていると思いますが、毛筆は、最初に始める3年生の一番最初のところを見たときに、2社とも穂先が斜めにいつているのがよく書いてあるのですが、光村図書は、筆圧のところを3段階の数字にわけて、穂先の形ですが、丸の大きさと中に書いてある数字で、穂先あるいは筆圧を数字で解かりやすく表しています。私は習字ができないので、これがあると良いなと思い、光村図書が良いと思った点です。

萩原委員…私も、栢沼教育長がおっしゃったようなこととほぼ同じで、光村図書さんが良いと思いました。光村図書の最初のところで、指でなぞり書きをするというのがあり、東京書籍ではなかったのですが、まだ鉛筆を上手に持てない1年生の最初の頃には必要なのではと思いました。3年生の毛筆を使うところで、同じページで見開いたときに、右側に毛筆、同じ文字を硬筆で書いてみようというのが各ページにあり、これはいいなと思いました。毛筆の書き方と硬筆の書き方はちょっと違うので、全く違うものを書いている感覚になるのですが、実は、毛筆で書いた丁寧さが硬筆にこれだけ使われていくということが解かりやすく示してあり、その点からも光村図書の方が良いと思いました。

和田委員長…最後に私が申し上げます。指のなぞり書きというところでは、光村図書は非常に徹底されていたということがわかりますし、高学年では、早く書く必要がある場面での書き方ということも載っていますし、これは応用ともいえる部分で、発達段階に応じた内容になっているとは思いました。しかし、東京書籍の方が、内容を見ると、応用という部分では、委員会活動の仕事をみんなに伝える、パンフレットの作成の例示とか、日常生活へ学習したことをつなげるための工夫が随所にみられるというところでは、評価できると思いました。それから、東京書籍は、フェルトペンの有効な使用法や細い筆の活用の例示も多くされている点も良いと思ひまして、どちらかというところ東京書籍と感じました。一通りご意見いただきましたが、みなさんそれぞれのご意見を聞いた上で何かご意見が、付け足すものがあれば、どうぞ。

(その他意見なし)

和田委員長…それでは書写は、光村図書と東京書籍から多数決により採択していきたいと思ひます。

光村図書…4人の委員が挙手

東京書籍…1人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、書写は光村図書を採択いたします。

③種目 社会

和田委員長…それでは、次に社会について、前回絞り込んだのは、順序不同で申し上げますと、光村図書と教育出版の2社です。ご意見をいただきたいと思います。

栢沼教育長…2社でしたら、私としては教育出版の方について述べさせていただきます。教育出版については、各時間の学習課題がとてもはっきり書かれている。そういった中で、児童が自らやってみたいとか、調べてみたい、そういった投げ掛けが教科書の中にありまして、主体的な学習の流れを意識させている点が評価できます。また、全体的には作業的、あるいは体験的な学習、問題解決的な学習が、適切に取り上げられている点、また社会的状況を反映した題材、これを取り上げて、児童が興味を持って学習できるよう配慮されている点、これらを評価したときに教育出版を採択したいと考えております。

山田委員…迷ったのですが、光村図書さんのお話をさせていただきます。3、4年生の下巻で、いいところいっぱい私たちの県というところで、箱根町が6ページにも亘って紹介されています。寄木細工の2人の職人さんの工程の写真、お話を紹介し、子どもたちがとても関心を持って、学習できると思えました。それから、5年生、6年生が1冊の本でまとめられていて、特に高学年の6年生には、過去から現在、未来へと捉えやすいと思えました。ホップ、ステップ、ジャンプと学習の段階が示してあり、取り組みやすいとも思いました。それから、日本の伝統文化のところで、現在の能、狂言、お茶会を写真で紹介しておりまして、昔の伝統文化が今現代にもつながっているということで、子どもたちが親しみを持てるのではないかと思えました。それから、全体的に教科書を見てみますと、字の間や行間が広々として、とても読みやすいと思えました。それから、6年生の巻頭、最初のところに、小和田哲男さんのこれから歴史を学習するみなさんへというメッセージがありまして、歴史を通して生きる意味をつかむという内容で、子どもたちにぜひそれを読んでもらいたいと思えました。私は、光村図書が良いと思えました。

山口委員…まず、一番最初のスタートのところで、光村図書のホップ、ステップ、ジャンプというのは、簡単な分、すごく解かりやすかったと思えました。教育出版のものは、前にも言ったのですが、教科書の使い方というページがあるのですが、その中の学習問題というのと、それから、これから解決していく問題と書いてあるのですが、今日何を学習するかという二つの違いがはっきりよく解からなかったのです。私が読み取れなかっただけかもしれませんが、その辺が、単純

にホップ、ステップ、ジャンプと3つに分けた光村図書の方が解かりやすく、光村図書が良かった点の一つです。寄木細工は、どちらの教科書にも出ているのですが、そのことよりも、小田原だけでなく、神奈川全体や日本のことに目を向けなければいけないと思います。小田原のまわりのことだけではなく、自分たちは神奈川県民ですし、横浜等私たちの県ということで、神奈川県を取り上げている光村図書の方がよりこれから高学年になっていったときに、必要な知識が得られるのではないかと思います。

萩原委員…迷っているのですが、教育出版も光村図書も内容面では、防災のことや情報ネットワークのことやエネルギー問題、歴史、政治についても網羅しているので、両方とも申し分ないと思います。見た目にも、先ほど、山田委員もおっしゃいましたが、レイアウトの良さとフォント、文字の分量も見易くてとても良いのが、光村図書だと思います。

和田委員長…私の場合は、皆さんがおっしゃったようなことは共通して、そう思いました。ただ、やはり小田原の荻窪用水というところは、地元ですから非常にみんなが親しんでいる教材が取り上げられているところで私は教育出版、みなさんのご意見も十分解かるのですが、荻窪用水というところに惹かれました。萩原委員がまだ判断しかねているとのことですが、他にご意見がなければ、決断していただきたいと思います。それでは、採択することよろしいですか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…社会は、光村図書と教育出版の2社から多数決により採択していきたいと思えます。

光村図書…3人の委員が挙手

教育出版…2人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、社会は光村図書を採択いたします。

④種目 地図

和田委員長…では、次に地図に移ります。地図は、2社で、東京書籍と帝国書院ということになります。まず、ご意見をいただきます。

栢沼教育長…私からは帝国書院について述べさせていただきます。災害や防災に関する内容の点で、社会的状況を反映した題材を取り上げている点や、宇宙からのメッセージを載せて、航空写真、絵、地図、児童が興味を持って学習できるよう配慮されている点が評価できると思います。また、防災マップ作りについて、調

べる、あるいはまとめるといった作業的な活動が提案されています。こうした提案の中で、問題解決的な学習を適切に取り上げて点が評価できると思っています。全体的には、伝統や文化に関する教育、あるいは体験活動等の充実が図られていることや、日本と世界を比較したり、他国同志を比較させたりしながら、色々視点、角度から地理を学ぶことができるように工夫されている点、これらを評価させていただきました。

山田委員…私も帝国書院の地図のことを申し上げたいと思います。まず、馴染みがあるからかもしれませんが、色彩の濃淡が程よく、高低差や、広がり等がとても解かりやすいと思います。目に優しい地図だと思います。それから、地震や火山の災害と防災等も取り上げておまして、日本のプレートや世界の地震の分布等が載っております。また、防災マップ作り等も載っております。災害が起きたとき、安全に避難する方法を地図から考えようというページが載っておりまして、この前も申し上げましたけれど、海沿いの街の地図は、小田原の地形にとっても似ており、子どもたちにもぜひ見てもらって、災害が起きたときの避難とか、そういうことを考えてほしいと思いました。それで帝国書院が良いと思いました。

山口委員…前回話したところと違うことでいくと、帝国書院は、比較的最初の方で、地図の見方を勉強するところに、真上からみた写真とその絵と地図を対比させているところは、地図を見慣れていない子たちにとっては、写真が実際にはこのようになるのだなととらえるにはとても良いと思いました。また、山田委員がおっしゃったように、見慣れているせいもあるかもしれませんが、地図という意味では、帝国書院の方が見やすく、資料ということに関しては、A4版になっている東京書籍の方が、資料集としては使いやすいかもしれません。やはり、あくまでも地図帳ということを考えると、帝国書院かなと考えました。

萩原委員…私は、東京書籍の方が、A4サイズで地図全てが拡大されているので、見やすいと思いました。私自身は、やはり昔から使われている帝国書院の方が見慣れているのですが、東京書籍は、例えば京都市の中心部だけを拡大してみたりとか、修学旅行で使えるようなガイドマップ的な掲載があったり、地図だけでなく資料的な要素があるのが使いやすいと思われまます。地図を授業でどのように使うかによって、使用頻度も増えると思います。例えば、地図から地球環境や社会情勢など読み取るために使うとすれば、東京書籍の方が新しい地図の使い方ができるのではないのでしょうか。私は東京書籍を推したいです。

和田委員長…東京書籍は地図帳の見方について、非常に詳しく説明していると思いました。使う、調べる、まとめるの流れの中で、情報を得ていくという構成となっているのも良いと思いました。しかし、帝国書院の方が、航空写真を使って県の特徴が見やすくなっている、そしてホップ、ステップ、ジャンプの構成でとても解かりやすく、児童が興味を持って主体的に学習できるような工夫がなされていると思いました。私は、帝国書院の方が評価できると思いました。一応、み

なさんのご意見を伺いましたが、他に付け加え、ご意見等ございますか。

(その他意見なし)

和田委員長…では、他にないようですので、東京書籍と帝国書院の2社から多数決より採択していきたいと思います。

東京書籍…1人の委員が挙手

帝国書院…4人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、地図は帝国書院を採択いたします。

⑤種目 算数

和田委員長…では、算数について、前回で絞り込んだのは、学校図書、啓林館、東京書籍の3社であります。それでは、ご意見をいただきたいと思います。

栢沼教育長…啓林館ですが、わくわく算数学習というページがありまして、話し合いの仕方を示しています。また、図の書き方も系統立てて取り扱っている点が評価できます。また、学びを活かそうとか、読み取る算数といった特設ページを設けて、学習課題だけではなく、他教科との学習をつなげている。さらには、社会科や生活科の学習等とも関連させている。そういったところから、児童も算数で学習したことを活かしていく、そういった具体的な場面がイメージできる、また活用する力も身に付いていくという点で評価できます。全体的には、学習指導要領における改善事項、とりわけ言語活動に関する話し合いの仕方を示している点、あるいは既習内容を定着させるための繰り返し学習、こういう内容がある点を評価しました。

山口委員…前回みなさんの意見を聞いて、もう一度見直しました。確かにどれもすごく解かりやすく、目当てが書いてあったり、その日にやらなくてはいけないことは、こういうことなんだということが、すごく解かりやすくでいたり、準備の問題とかもよく出来ていますし、チャレンジ問題とか色々あって、どこも本当に良いと思います。私自信が前にも言ったように、色々な単元を全社比べて、自分にとっての解かりやすさ、理解しやすさを順番並べていたときに、一番合計のポイントが高かったのが東京書籍でしたので、今回は東京書籍を推します。

萩原委員…私は啓林館が良いと思っています。単元の初めに赤字で、これから学んでいくこと目当てが書かれており、その単元を児童も見ても解かるし、保護者が見てもすぐに理解しやすいと思いました。個人の習熟度によって巻末に設定した、もっと練習へという練習問題があるのですが、それに進むためのインデックス

のようなものが、同じページの下の方に必ず掲載し、工夫されていると思います。

山田委員…私も啓林館を推したいと思いました。まず1年生が初めて数にあうときに、とても解かりやすく、楽しいイラストで導入にとっても良いと思いました。それから啓林館がとても良いと思ったのが、新しい単元に入る前に既に習っている練習問題や学習があるところが良いと思いました。例えば、割り算の学習をする前に、掛け算の練習問題や九九の表等が載っているので、割り算へいく前の必要な勉強がまず先に出来る、復習問題が出来るのが、子どもたちにはとても良いことだと思いました。先程、栢沼教育長がおっしゃったように、学びを活かそうというところは、実際の生活に根付いた計算問題が出ているので、算数が身近なもの、日常生活に算数が必要だということを子どもたちが感じることができると思いました。

和田委員長…それでは、私から意見を申し上げます。結論から言うと、学校図書が良いと思いました。それはなぜかという、算数は極論すると、約束通りに考えを作業を進める、作業を進めていくということを学習する教科であろうと思っています。そういう意味では、算数用語の解説をきちんとしているということが、とても重要なことだと思っています。特に、小学校1年ぐらいで、夏休み前に、「この子、算数の勉強をもう少ししっかりやってくださいよ。」と担任に言われる場合に、できないのは、ほとんどが国語力の問題なのです。ということで、算数用語というのは、4年生になると急に増えるのです。そこでつまづく子どもたちが非常に多いと私は現場で感じています。そういうことで、大切な言葉の解説が赤色で囲んであり、目に引くようになっている学校図書の教科書は、そこを徹底しているのです。その点がとても良いと思いました。もう一つは、算数探検隊で、大風や札幌の地図等で、日常の中に算数が生かされていることも示されている。やはり算数というと、あまり生活には使われていないような感じがしますが、こういうところで、使われているのだと表されているのは評価できます。そういう点で、学校図書が良いと思いました。それでは一通り意見を聞かせていただきましたが、他に補足することがありますか。

(その他意見なし)

和田委員長…では、学校図書、啓林館、東京書籍の3社から多数決より採択していきたいと思えます。

学校図書…1人の委員が挙手

啓林館…3人の委員が挙手

東京書籍…1人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、算数は啓林館を採択したいと思います。

⑥種目 理科

和田委員長…では、次に理科に移りたいと思います。前回絞り込んだのは、順不同で申し上げますと、啓林館、大日本図書の2社です。それでは皆様のご意見を伺いたいと思います。

栢沼教育長…啓林館についてですが、身近な遊び、あるいは生活場面の中から出た疑問、課題、疑問を課題に結び付けて、それを検証していくという実験や観察の構成になっている。問題解決的な学習を進めるうえで、子どもたちの実感を伴った理解につながりやすく工夫されている。また、6年生では、小田原の地層、あるいは箱根、大涌谷、地球博物館の紹介等、私たちにとって身近な教材となるものが数多く掲載されています。そういった点で、児童の興味関心を引き出すことに有効であると考えてみました。さらには、挿絵にさりげなく車いすの児童、外国人の児童の姿を使う場面がありまして、人権的配慮も非常に感じられました。全体的には、観察、実験、もの作り、栽培、飼育の5つの活動が問題解決能力の育成に適した内容となっています。また、図や挿絵等も適切に配置され、環境教育に関する資料も子ども達の発達段階に即している、そのような点を評価しました。

山口委員…絞り込まれた2社は、どちらもすごく理科に力を入れているということがわかり、啓林館では、科学の目で見てみようという、どういうふうの実験を組み立てればいいのかというところがとても良かったし、理科につながる算数の窓というのもすごく良いと思います。私が特に良いと思ったのは、大日本図書の計画の立て方なのです。計画が、とても詳しく立てられているので、理科の実験や色々研究をしていくときにも、計画が良くないと先がどっちへいくか解からない、ある程度、計画を立てることが大事だと思うので、計画が良くできている方が良いと思いました。それから、例えば、ふりこの実験のところ、ふりこの長さとおもりを変えるとどのような時間になるのか見てみましょうというイントロダクションをしている教科書が多いのですが、大日本図書は、子どもたちに自由にふりこを作らせて、自分たちのふりこの周期が違うのはなぜかと気付かせることからスタートしています。科学は、なぜということから始まって進んでいくものなので、なぜと気付かせることがとても良いことだと思っています。そのようなイントロダクションをしている大日本図書を薦めます。

萩原委員…どちらの教科書にも小田原の地層等を紹介したり、入生田の県立生命の星・地球博物館が掲載されていました。写真で選んでしまうと、とても迫力があり、良かったのは、啓林館です。全体的に写真の質がとても高く、良い写真を使うことを重視して作られた教科書だと思いました。大日本図書の方では、実験や

観察等の前に予想しようというコーナーがあるのです。実験後の考えようというところ等、活動しやすいのかなと感じました。理科の玉手箱というページがありますが、電気と科学技術と私たちの生活は、どうつながっているのかというような提案があり、2011年の原子力発電所の事故についても詳しく書いてありました。どちらがよい決めかねています。

山田委員…私は、啓林館の教科書が良いと思いました。科学や理科の大事なところを捉えていると思ったのです。大人が当たり前に思っていることを不思議だとか、どうしてなのかと思わせるところ、そして調べて、学習して、発見するという視点でみると、啓林館は子どもへ疑問を投げかけて、実験して、そこから解かることがあるということスムーズに進められていると思いました。それから、児童同士で話し合おうというものがいたるところで設けられているので、子どもたちが先生から一方的ではなく、子ども同士で色々話し合いながら進めていけるようになってきていると思いました。それから、別冊の理科プラスというものは、発展学習ができて、とても良いものなのですが、それをぜひ授業で活用していただければという希望があります。

和田委員長…それでは、最後に私の意見を申し上げます。結論を言うと啓林館が良いと思っています。というのは、これからの未来を見据えるという意味では、環境教育が絶対欠かせないだろうと思っています。理科の場合、あらゆるところで環境につながる学習ということになると思います。それを思うと、啓林館でも言えるのですが、どの教科書もあまり細かく環境につなげていないところが不満でした。しかし、啓林館では最後に、未来に続く暮らしのためにというページがあり、環境教育についてうまい提案をしているというところで、私は、啓林館が良いと思いました。萩原委員が決めかねているようですが、どうですか。

萩原委員…はい、決めました。

和田委員長…それでは、ここで採択にいきたいと思います。

啓林館…4人の委員が挙手

大日本図書…1人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、理科は啓林館を採択いたします。

⑦種目 音楽

和田委員長…では、次に音楽です。音楽については、教育芸出版社と教育出版の2社ですので、まず、皆さんのお考えを伺いたいと思います。

栢沼教育長…教育芸術社では、3年生、4年生の鑑賞学習で、ワークシートを設けたり、子ども達が考えるヒントになる吹き出しというものを載せて、自分で考えたり、

グループで話し合ったりすることができ、言語活動の充実につながる展開となっている点が評価できます。6年生のオールウェイズ3丁目の夕陽など、大変興味を持たせる選曲がされている点、また、3年生以上の巻頭の音楽プリズムには、自然と音、音の力、人をつなぐ音楽、このように音楽の持つ力や可能性を取り上げて、児童が音楽に興味を持てるよう工夫している点が評価できます。さらに、学習のポイントを熊のキャラクターでアドバイスという形で示してあったり、鑑賞の学習では、絵、付図も掲載されています。聴くポイントが示されており、音楽の基礎的な内容を楽しく学べる学習展開となっている点も評価できます。また、音楽作りの観点から見ると、リズム作り、旋律作り、こういった学習が系統的に配置されている点を評価いたしました。

山口委員…教育芸術社の振り返りのページという部分ですが、学年に応じて大切な点がどんどん変わっていくようなことになっており、学年に応じて作られている教科書という感じがしたので、良いと思いました。曲について、どれが良いかということとは分かりませんでした。

萩原委員…教育出版が良いと思ったところをお話します。3年生でリコーダーの演奏の仕方を学ぶところがあるのですが、構え方と穴の閉じ方、それをリコーダーを吹く側の目線から写真で示されているのです。それが色々なページに掲載されています。これらは、児童にとって分かりやすい写真と思いました。以前、音楽の授業参観へ行ったときに、左右の指を逆さまに覚えてしまった児童がいました。お手本にする先生が対面式で教えますので、最初それを見て、左右を逆に覚えてしまったのかなと思いました。それをずっと直せなかったという経緯があったので、左で高い音をおさえ、右の指で低い音をおさえるという演奏者目線の写真の掲載が良かったと思いました。5、6年生の巻頭ページのところに、バイオリニストの後藤みどりさんと目の不自由なピアニストの辻井伸行さん等のメッセージがとても良いと思いましたので、そういう意味でも、教育出版が良いと思いました。

山田委員…私は、とても悩んでしまいましたので、もう一度、教科書を丁寧に読み直してみました。教育出版は、萩原委員がおっしゃったように、国内外で活躍する日本の音楽家からの子どもたちへのメッセージが掲載されており、とても素晴らしい内容で、良いなと思いました。それから、音階のところで、ドレミファソラシドを表すときに、縦ではなく、横に階段のように表すところが、子どもにはとても分かりやすいと思いました。それから、リコーダーのところでも、教育出版がとても良いと思いました。リコーダーのそれぞれの部位について、名前と役割をきちんと示して、解説していました。それから、リコーダーを吹くときの息の吐き方は難しいのですが、大きなシャボン玉を作るときのように、息を真っ直ぐに吹きなさいと子どもにはとても分かりやすい表現をしていました。それから、該当する学年の子たちにはちょっと難しいのではと思ったところがありました。5年生の巻末に音楽の素というまとめがあるのですが、そこ

には旋律、リズム、フレーズの重なり合った図が掲載されており、専門家ではないと解かりにくいような感じです。5年生には難しいと思いました。4年生の色々な歌声を楽しもうというところで、モーツァルトの魔笛が取り上げられているのですが、それを楽しんで聴くにはちょっと難しいと感じます。

やはり、小学生にとって、合唱や合奏がとても大事だと思うのです。みんな練習して、何もないところから、心合わせて素敵なハーモニーを作り上げるというのが、クラス作りにも役立ちますし、詩に込められた想いや作曲者の持っている想いを理解し、自分たちも感動し、聴いている人たちにも感動を与えるというのが、合唱や合奏の良さなのです。特に合唱は、自分の身体が楽器なので、ピアノ等楽器を持っていなくても、子どもたち誰でも持っているものなので、音楽においてはとても大事だと思っています。そう思うと、教育芸術社の教科書が全学年を通して、初めに歌を中心とした単元が必ずあり、1年生では歌で仲良しになろう、2年生では歌で友達の輪を広げよう、3、4年生では明るい歌声を響かせよう、5、6年生では豊かな歌声を響かせようという、声を段々合わせていく楽しさ、ハーモニーを作る楽しさをすごく丁寧に取り扱っているところがとても良いと思いました。それから、日本の古くから歌い継がれている大事な歌、心の歌については、教育出版にもありますが、教育芸術社は、各学年4曲ずつ必ず取り上げており、良いと思いました。教育出版で4年生の題材に取り上げられていた魔笛を教育芸術社でも取り上げているのですが、その取り上げられ方が子どもにとって楽しくなるような取り上げ方になっています。歌声を楽しもうというところで、魔笛の中に、鳥飼のパパゲーノとパパゲーナという人が出てくるのですが、この二人の掛け合いが子どもにも楽しいところで、そこだけを取り上げているので、子どもたちにはとても楽しめると思いました。それから、6年生の音楽の教科書では、卒業式でたくさん歌う合唱曲に大変相応しく、感動的な題材が数多く取り上げられていると思いました。色々悩みましたが、教育芸術社が良いと思いました。

和田委員長…山田委員には専門的考察をしていただき、ありがとうございました。それでは、最後に私から言います。結論を申し上げますと、教育芸術社が良いと感じました。細かいところはよく解からなかったのですが、みなさんのご意見を参考にさせていただきながら考えました。3年生のリコーダーの世界へというところで、ヨーロッパではリコーダーが小鳥に歌を教えるのだという話が出てきたり、4年生で自然の音というところで、風の音、強い風や爽やかな風の聞き取りということが取り上げられたり、もっと不思議だったのは、不思議の木というところで、アマゾンの木が通信手段として使われていたということだったり、音楽の技術的そのものではないですが、音楽の世界に触れていくきっかけになり、自然の中にはそういうことがたくさんあるのだなということ気付かせてくれるというところで、教育芸術社が良いと思いました。一通り、委員のみなさんからご意見を伺いましたが、他に何か付け足すことがあるでしょうか。山田委

員のように、今回もう一度みなさんからの意見を聞いたり、考え直したら前回選択したものと違う出版社になったとかいうこともある訳で、他の委員のご意見を聞いた後、ご自分の意見を翻すということがあっても良いかと思えます。それでは、他にご意見ありませんか。

(その他意見なし)

和田委員長…では、音楽の教育芸術社と教育出版の2社から多数決により採択していきたいと思えます。

教育芸術社…4人の委員が挙手

教育出版…1人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、音楽は教育芸術社を採択いたします。

⑧種目 図画工作

和田委員長…次は図画工作についてであります。こちらも日本文教出版と開隆堂の2社の中から選んでいただくことになります。まず、ご意見をいただきたいと思えます。

栢沼教育長…日本文教出版についてですが、気を付けるポイントを示した安全面の配慮点、留意点、そして、片付けへの意識づけ、これについては、各学年の発達段階に応じて記載されております。かつ、きめ細かい配慮がされている点が評価できます。また、造形遊びが多く掲載されており、感性を磨く内容が充実していると思えました。また、イメージ作り、あるいは材料集めにおいては、子ども達がこれから学習する内容を確認し、ある程度のイメージを持って、材料を集めることが自然の流れになります。学習ページに記載していることが、児童にとって解かりやすく、発達段階に配慮されているのではないかと、そのような点が評価できました。

山口委員…2社の一番違うところは、今、栢沼教育長がおっしゃられたように、準備するものの材料一覧が目次に出ているか、各学習ページの下に出ているかです。私は、前はどちらでも一緒ではないかと見ていたのですが、萩原委員のお話を聞いて、やはりページが違うとその結び付きがしにくいお子さんもいらっしゃるというお話を伺うと、やはり学習ページの下に準備するものの一覧がでているものの方が使いやすいのではないかと考えました。内容については、どちらもすごく良いページがあり、例えば開隆堂では、表紙のすぐ後くらいに、夢を形にとという色々な芸術のプロを紹介しているページがあるのですが、こういう職業、絵を描いたりとか、彫刻だけではなく、写真の関係だとか、色々なプロ

の職業もあるのかということが解かり、感動しました。一方、日本文教出版は、作品例の中に、必ずではないかもしれませんが、外国のお友達の絵がほしい1点ずつ載っているのです。やはり感性が少しずつ違うところが描かれていて、これは良いなと思いました。それから、12年後の私を作らせるページがあったのですが、社会人になったとき、自分がこういうことをやっているのではないか、自分の目標を粘土等で作らせていたので、このようなページは、結構面白いと思いました。全体的にみて、日本文教出版を推すことにしました。

萩原委員…私も、前回と同じ、日本文教出版が良いと思います。6年生の図画工作の広がりというページがあるのですが、そこで美術館とつながるというタイトルで、全国の美術館で地域の子どもたちが美術鑑賞をしていたり、ワークショップ等を受けている写真がたくさん紹介されているのです。世界的に有名な名作だけが美術館にある訳ではなく、もっと身近に感じられるような作品はたくさんあり、美術館に対する見方が変わってくるような気がしました。アートを通じて、人と人をつなげるという活動をするのが美術館の姿なのかなと読み取ることができました。日本文教出版の低学年の図画工作の教科書で、随所に児童の作品が子どもたちの笑顔とともに紹介されていましたので、それを見た子どもたちに、自分もやってみたいと思ってもらえるのではないかと思います。それから、中学年の教科書で、巻末に材料と道具のページがありますが、そこにマブリング、スパッタリング、ドリッピング等といった美術の専門用語が掲載されており、それらを実際に使いながら、写真も入って、技法が紹介されているのです。美術の学校で教わるようなことも、さりげなく小学生に教えているというのがさすがだなと思いました。どの学年の教科書にも共通していたのは、児童が身近な材料を駆使して、創作活動を楽しみ、生き生きとした表情をしている写真が掲載されている点であり、そういうものが紹介されているのは良いなと思いました。そういう作品等を見てもらおうというページがあり、様々な展示の事例が紹介されています。例えば、学校内を飾ってギャラリーにしようとか、教室を美術館のように変えてみようというような設定があります。形に捉われない自由な発想力というものを養うには、とても良い年齢だと思います。例えば、図工で学習キットがありますが、それでみんなが同じものを作るよりは、みんなの想像力や発想力を活かして、授業になっていった方が、図画工作を好きになる児童が増えるのではないかと思います。そういうことで、日本文教出版を推します。

山田委員…私は、開隆堂が良いと思いました。開隆堂の本に流れている考え方が、個人の感性の自由さを重んじていると感じ、そこが良いと思いました。また、夢を形にというところでは、絵や彫刻だけではなく、布で作ったアーティスト等、色々な今活躍している若いアーティストたちを取り上げています。作品とその言葉を取り上げ、子どもたちが誰でも作れるような作品を載せているので、とても良いページだと思います。それから、小さな美術館というタイトルで、

様々な作家の作品、有名とかではなく、良い作品を発達段階に応じて載せているというのも良く、そのようなことから開隆堂が良いと思いました。

和田委員長…それでは、最後に私から話します。日本文教出版の全体のレイアウトの仕方が非常に統一感があり、解かりやすいと感じました。各單元ごとに目指すものとして、掲示板という形で、黒板のようなものが必ず表示されていたり、気を付けようでは、ピンクで囲んであったり、片付けるというところでは、黄緑色で表す等、非常に統一感があります。單元ごとに同じパターンになっているところが、解かりやすく、シンプルに感じ、うまく授業展開ができるのではないかと思います。私は、日本文教出版が良いと思いました。一通り、皆さんからご意見をいただきましたが、他に何か付け足すことがありますでしょうか。

(その他意見なし)

和田委員長…では、無いようですので、日本文教出版、それから開隆堂の2社から多数決により採択をしていきたいと思えます。

日本文教出版…4人の委員が挙手
開隆堂…1人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、図画工作は日本文教出版を採択いたします。

⑨種目 家庭

和田委員長…次は、家庭科になります。家庭科は、開隆堂と東京書籍の2社であります。それでは、皆さんのご意見を伺いたいと思えます。

栢沼教育長…東京書籍についてですが、米のとぎ汁の再利用、グリーンカーテン、打ち水が紹介されていて、環境あるいは防災に関する日々の備え、こういう点について紹介されていて、社会状況を反映した題材が適切に取り上げられています。その点、児童が興味を持って学習できるよう配慮されていると評価できます。また、課題、実習、生活に生かすという3つのステップができており、実習において、自分の気持ちを伝える活動を取り入れることで、家族の一員として、生活をより良く工夫する能力とか態度が育つよう、適切に取り上げられている点等も評価できます。そういった点で、家族の一員として、生活をより良くする能力、態度の視点、あるいは、児童が興味、関心を持って学習に取り組める、そのような構成がされている東京書籍を評価しました。

山口委員…前回にも言ったのですが、どちらも甲乙つけがたく、私は、しいて言えば開隆堂の方が、食べ物、食育がより詳しいと思ったので良いと思いました。それか

ら、油をそのまま捨てないようにしましょうというのは、だいたいの教科書でも書かれていることですが、なぜというところにつながるように、油小さじ1杯を浄化するのは、水が330リットル必要になりますということ、より具体的に驚かすような数字で出されていたところが、子どもたちもそれを読めば気を付けるようになってくれるのではないかと感じて、開隆堂を推します。

萩原委員…私は、東京書籍が良いと思いました。文字の大きさや書体、行間等がゆとりがあって読みやすかったのです。色々な細かい視点、例えば包丁の使い方や調理方法とか、ミシンの使い方、糸通しの難しいところ等、写真で大きく紹介していて、実用的かなという意味で、東京書籍の方が子どもは見やすいのではないかと思います。

山田委員…私も東京書籍の方が良いと思いました。開隆堂も食物アレルギーのことを取り上げて、今問題となっていることですから、それもととても良いと思ったのですが、東京書籍は、3つのステップ、DO活動と学習のめあて、振り返ろうと、それに従うとスムーズに学習ができるようになっていきます。それから先程萩原委員がおっしゃったように、ミシンの使い方、下糸や上糸の扱い方、かけ方がとても解かりやすかったです。それから、巻末に実物大の子どもの手の大きさと、包丁の使い方や針と布の使い方等が示してありますから、児童は教科書を広げて、そこに自分の手を置いて、確かめながらシミュレーションができるというのは、とても良いアイデアだと思いました。それから、食育のことでは、楽しく食事をするための工夫や、日本の伝統文化やもてなしの心のための食事、食事の悪いマナーの例とか、とても色々な面で東京書籍の方が良いと思いました。

和田委員長…それでは、最後に私の意見を申し上げたいと思います。東京書籍の、日々の備えというところで、電源がなくなったときに炊飯器でどのように炊くかという話、これは、防災や生活力につながっていく話だと思います。お椀とお箸の持ち方というところでは、マナーというところ、美しく食べることは、その人の品格を表す訳ですから、このようなこともこの年齢で触れているということは、とても良いことだと思いました。それからプロに聞くということも良いと思いました。ただ、開隆堂の方も、先程山口委員が言ったような非常にインパクトのあることが載っていました。いわゆる洗剤というのは、浄化のことでは、年がら年中に言われてきました。その洗剤に比べて油は浄化にもっとたくさんの水が必要になるということ、非常にショッキングな、インパクトがあるなと思いました。單元ごとにできたかなというところのチェック、振り返ろう、生かそうというところのチェックでは、発展的な学習として評価できるなと思いました。私は、どちらをとったら良いかと非常に困ったのです。先程の萩原委員ではないですが、最後まで決着がつかない、どっちかなというところですが、決めなければいけませんので、何とかしたいと思います。他に何かみなさんからご意見があれば、お願いします。

(その他意見なし)

和田委員長…それでは、開隆堂と東京書籍の2社から多数決により採決したいと思います。

開隆堂…2人の委員が挙手

東京書籍…3人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、家庭は東京書籍を採択いたします。

⑩種目 保健

和田委員長…それでは、次に保健に移りたいと思います。保健は、前回絞り込んだのを順序不同で申し上げますと、学研教育みらい、光文書院、東京書籍の3社です。皆さんからご意見を伺いたいと思います。

栢沼教育長…学研教育みらいについてですが、話し合ってみようというマークがあり、話し合う機会を設けたり、あるいは教科書に直接書き込み記述のスペースが多くある、そういう点で、言語活動の充実が図られている点と、児童の興味関心に即した内容、あるいは現代的な健康課題を発展的な学習内容として取り上げ、その量も大変豊富となっている点が評価できます。また、学習内容をより深めるために、パソコンの使い方、身体の成長、新しい生命、一日の体温リズムと健康、新型インフルエンザ、熱中症、防災、たばこの煙の有害物質等を取り上げており、それらを詳しく調べるために、関係機関のURLが記載されている点も評価したいと思います。各時間の巻末に活用コーナーを設けて、習得した知識を活用して、それを生活実践に結び付けていく、そういう力を育てようとしている点、まさに思考力、判断力、表現力等の今問われている確かな学力が育つよう、適切に取り上げられている点等において、評価できます。また、児童の興味関心や現代的健康課題に関する発展的な学習内容の取扱いがされていますし、適切であるという点を評価しました。

山口委員…まず、低学年向け、3、4年生向けの上巻では、どこもそんなに差がないのですが、色々な、理科でも他の教科でも、手を洗いましょうとは書いてあっても、手の洗い方についてきちんと細かく書いてあったのは、学研教育みらいでした。光文書院もある程度書かれてありましたが、東京書籍は私が見つけられなかったのかもしれませんが、手の洗い方について細かくは書いてなかったように思います。5、6年生の上級生の方になってくると、一つ気を付けなければならないのが自転車で、みんなでどこかへ出かけていくのですが、自転車の安全について一番書かれていたのが、東京書籍です。光文書院にもある程度書かれて

いるのですが、学研教育みらいには自転車の注意事項はでていません。あとは、みんなどこも同じになってしまうのですが、インターネットの危険についても大事で、これから覚えていかなければならないのですが、インターネットの危険については、光文書院が一番書かれていて、東京書籍には出ていなくて、学研教育みらいには少しだけ、1行くらいでているだけでした。ケガの手当てや病気については、どこもだいたいそんなに変わらないのですが、今、ある程度問題になっているはしか等がまた出てきている、日本は撲滅できていない問題ですが、はしかについては、光文書院と学研教育みらいがちゃんと載せていて、東京書籍には出ていませんでした。その辺りから考えると、私は光文書院か学研教育みらいかと、まだ迷っている途中です。

萩原委員…私も学研教育みらいと光文書院のどちらかかなと思っています。両方とも心の問題について、心の健康について等取り上げてはいるのですが、光文書院の方がイラストをたくさん使って、小学生に解かりやすいストレスについての解説がなされていると思いました。ストレスについて、中学生になってから知るより、それより前の小学生の間に学ぶということは良いことだと思います。学研教育みらいの良いところは、学習内容、情報がとても豊富だと思います。WEBサイト、URLがついており、調べたいと思うときに、今はインターネットで調べることも多いので、学習として使えるのかなと思いました。授業でインターネットが使われると思うので、調べ学習等にも有効だと思います。その点から、学研教育みらいの方が良いと思います。

山田委員…私は、学研教育みらいが良いと思いました。A4版でゆったりとした紙面作りがとても見やすくまとめられていると思いました。それから、教科書に直接書き込むスペースが多かったです。それから、3、4年生は、身体の中で起こる変化について、時期や起こり方は一人ひとり違うということをも1回ではなく、何回も取り上げて、児童の不安を和らげていると思いました。それから、5、6年生の心の健康のところ、不安や悩みへの対処の単元に4ページをとって、とても丁寧に扱っていました。児童の悩みに、スクールカウンセラーが答えるという形で、具体的なやり取りが何回も取り上げられていて、子どもたちはスクールカウンセラーの存在が身近に感じることができると思います。また、何かあったときに、学校のスクールカウンセラーへ相談しやすくなるのではないかと思います。

和田委員長…それでは、最後に私の考えを申し上げます。結論から申し上げますと、光文書院が良いと思いました。というのは、心の健康の章で、感情、社会性、思考力が年齢とともに変化していることに気付くように、非常にうまく取り上げられていると感じたからです。心と身体がつながっていること、不安や悩みの対処の仕方を考えたりしながら、最後に自分の良さを見つけて書くようにというようになっています。やはり自分の良さに気付くということはとても重要なことだと思いますので、そこまできちんと研究している光文書院がよいと思いまし

た。さらに発展で、ストレスについて解説し、保健の広場で悩みの相談先まで紹介している、これは行き届いていると感じましたので、光文書院が良いと思いました。以上で委員の方のご意見をいただいた訳ですが、他に何か付け足すことがあるでしょうか。

(その他意見なし)

和田委員長…では、学研教育みらい、光文書院、東京書籍の3社から多数決により採択していきたいと思います。

学研教育みらい…3人の委員が挙手
光文書院…2人の委員が挙手
東京書籍…挙手なし

和田委員長…多数決により、保健は学研教育みらいを採択いたします。

⑪種目 生活

和田委員長…それでは、最後になります。生活については、前回絞り込んだのは、順不同で申し上げますと、学校図書と東京書籍の2社です。それでは、委員の方々のご意見を伺いたいと思います。

栢沼教育長…私は、東京書籍について述べさせていただきます。活動を通して、身に付ける習慣や技能を約束として解かりやすく表示されています。また、健康や安全についても適切に入っていると思います。また、スタートカリキュラムについては、スタートブックというページで楽しそうに学校生活を送っている児童の写真を載せていることで、学校へ行きたいという気持ちになれるようになっていく点が評価できます。さらには、みつける、くらべる、たとえる等気づいたことをもとに考えさせる学習活動例が組み込まれています。また、みつけたことから考えようというページもありまして、気づきの質、あるいは思考力を高めることが出来るように、多様な学習活動が工夫されている点が評価できると思います。全体的には、社会的状況、とりわけ小1プロブレムを反映した題材を取り上げており、子どもたちが興味を持って学習できるよう配慮されている点、気づきの質が高まっていくような多様な学習活動が扱われている点を評価させていただきました。

山口委員…私は、学校図書が良いと思いました。巻末に保護者の方へという、各単元の学習のねらいが5つあり、それがすべて5色に分かれているのですが、その5色が教科書の目次とか各学習ページの右上の見出しの部分と全部色が統一されて

いるのです。その教科書のこのページをやっているときは、こういうねらいなのだということが、巻末を見れば一目で解かるというのは、子どもはそこまで見ないのかもしれませんが、教える側、あるいは親が子どもと一緒にやっていく場合には、例えば安全対策に関して等、良いのかなというのが一つありました。防災に関しては、前回も言いましたが、東京書籍は、地震に関してのことは書いてありました。一方、学校図書は、地震の他に、火事と今問題となっている大雨、雷に対してどういう行動をとったらよいかということがより具体的に出ていたのです、今の時代に即しているのかなと感じました。

萩原委員…私は、東京書籍が良いところをお話したいと思います。下巻の58ページからなのですが、図書館へ行こうと題して、図書館がどんなところで、借りるためにはどうしたらよいかと解説が4ページに渡って紹介されています。学校図書にも図書館のことは紹介されていますが、写真1枚でしたので、東京書籍の方が詳しく書かれています。また、これはぜひいただきたいと思うページがありました。生活科で公共施設、校外に出ていくことが2年生くらいであります、そのときに施設でのマナー等を約束というコラムの中にまとめてありました。これは、子どもたちがとても理解しやすいし、指導する側としても、出かける前にこれを守ろうねと言いやすいのではないかと思います。それから、写真の中に盲導犬を連れた男性が街中、商店街を歩いているものがあったり、高齢者と子どもたちが町探検で触れあっているような写真が豊富に掲載されていて、インクルージョン社会が写真から読み取れます。

山田委員…私は、学校図書が良いと思いました。巻頭が楽しいイラストで、友達がいっぱい、一緒に遊ぼうとか、絵本のように楽しくて、子どもたちが学校は楽しいところだと思って通えるのではないかなと思いました。それから、私のあさがおという單元では、他社の教科書は、アサガオだけでなく、ヒマワリとか色々なものを取り上げているのですが、アサガオだけに限定して、20ページも使って、種まきから開花まで、とても丁寧に取り上げています。あさがお日記の実例を挙げながら大変解かりやすく、じっくり子どもたちが学習することができると思いました。それから、とても良いと思ったのは、上下巻とも学び方図鑑というものがあり、子どもたちが生活するのに役に立つことが具体的に載っています。例えば、1年生の聞くというところには、上手な聞き方の秘密というようになっていて、お話をしている人を見て良く聞くと解かる、お話を最後まで静かに聞こう、自分と同じ考えのときはうなずくといいよ、解からないことがあれば質問しよう等、1年生にはすごく解かりやすい表現で、学び方の大事なこと、基本となるものを発達段階に応じて示しているところがとても良いと思いました。

和田委員長…それでは、最後に私から申し上げます。学校図書の「いかのおすし」という標語で覚えるというところで、小さいときに覚えたものは、ずっとインプットされていて、大人になっても、そういうものは離れない、その手法がここの中で、

いくつか出ています。小学校時代に標語で覚えるというのは、良いと思いました。他にもたくさんあるのですが、一応、全体を見て、学校図書が良いと思いました。委員の方々からご意見をいただきましたが、他に何か付け足すことがございましたらどうぞ。

(その他意見なし)

和田委員長…それでは、学校図書、東京書籍の2社から多数決により採択していきたいと思
います。

学校図書…3人の委員が挙手

東京書籍…2人の委員が挙手

和田委員長…多数決により、生活は学校図書を採択いたします。それでは、これで小学校の
種目ごと採択は終わりましたが、再度確認の意味で、種目ごとに確認して終わ
りたいと思います。まず最初に国語は3票を獲得した学校図書。書写は4票を
獲得した光村図書。社会は3票を獲得した光村図書。地図は4票を獲得した帝
国書院。算数は3票を獲得した啓林館。理科は4票を獲得した啓林館。音楽は
4票を獲得した教育芸術社。図画工作は4票を獲得した日本文教出版。家庭は
3票を獲得した東京書籍。保健は3票を獲得した学研教育みらい。生活は3票
を獲得した学校図書。以上、間違えがないでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、本日の議事はこれで終わりますが、この期間、委員の方々、大変暑
い中、小田原の子どもたちのために頑張ってくださいまして、どうもありがと
うございました。

(4) 委員長閉会宣言

平成26年9月30日

委員長

署名委員（萩原委員）

署名委員（山口委員）